

かるがも



第37号

発行所 千葉県こども病院
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1
TEL 043-292-2111
FAX 043-292-3815
<http://www.kodomo.umin.jp/>



新年のご挨拶



病院長 伊達裕昭

平成26年新春のご挨拶を申し上げます。

年末年始は比較的穏やかな天候に恵まれて、皆様には恙なく新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は12月に入って急に寒い日が続くようになり、乾燥した冷え込みとともにインフルエンザが拡がりを見せ始めました。定点当たりの発生報告も12月25日現在で1.39と流行開始の目安とされる1.0を超えたことから、全国的な流行がそろそろ始まったことを思わせます。この季節にはこどもの胃腸炎も流行します。外出後の手洗いとうがいを励行して、体調の管理にはくれぐれもご注意ください。



さて、昨年の暮れに発表された2013年の一年を表す漢字は「**輪**」でした。台風などいくつかの自然災害に対して支援の輪が全国的に拡がりを見せたこともあるでしょうが、なんとと言っても2020年東京五輪の開催決定に日本中が輪になって歓喜に沸いたことが、選定の大きな理由でしょう。前回の東京オリンピックが開かれた1964年の秋、開会式の日に見た、抜けるような青空をバックに航空機が描いた五つの輪は、今も数々の競技とともに鮮明な記憶として残っています。きっと、2020年のその日も同様に、多くのこども達の心に長く残る特別な日になることでしょう。



そして今回のオリンピック開催地誘致のプレゼンテーションで、滝川クリステルさんが使われた「おもてなし」という言葉も、その後、昨年の流行語になるなど話題になりました。

プレゼンテーションでは、「おもてなし」は日本人がお客様や大切な人をお迎えする心と態度、言動を指す、わが国の伝統的な文化として紹介されていました。これに該当する英語といえば、ホスピタリティ (hospitality) になるでしょうが、この単語はラテン語で「客人の保護者、主人」を表す「hospes」から派生した言葉とされています。辞書によればホスピタリティという言葉は、巡礼者が長い旅路の途中で空腹や喉の渇きを覚えたり、疲労して休息が必要なときに、現地の人が主人(hospes)として手をさしのべ、無償で飲食を分け与えたり疲れを取る宿泊の場を提供する行為を表していたそうです。さらに、この保護者である主人が、旅人である客人を接待する場所を表す「ホスピタリア (hospitalia)」という単語が、現在の「病院 (ホスピタル hospital)」の語源になっているというのも、大変に興味深いことです。いたずらに高価で華美なもの、ごちそうを準備してマニュアル通りの接待、接遇を実行することよりも、訪れる人の心には安らぎを、身体には休息を与えられるように意識して対応することこそ「おもてなし」の本質であり、同時に共通の語源をもつ「病院」に求められる最も重要な要素ということでしょう。

当院は開設して25年が経過し、最新の施設が備えるような快適さ、利便性を必ずしも提供できないかも知れません。しかし、そんな現状も創意工夫でカバーして、何よりも、病院や医療者に対する患者さんおよびご家族の不安を解消し、ともに病気と闘うパートナーとして安心して身を任せていただけるような、そんな「おもてなし」の精神につながる姿勢の大切さを肝に銘じて、今年も職員一同、励んでまいります。



年頭に当たり、今年が皆さまにとりまして平穏な一年となりますよう祈念するとともに、旧年に変わらぬ当院へのご支援とご協力をお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成26年1月